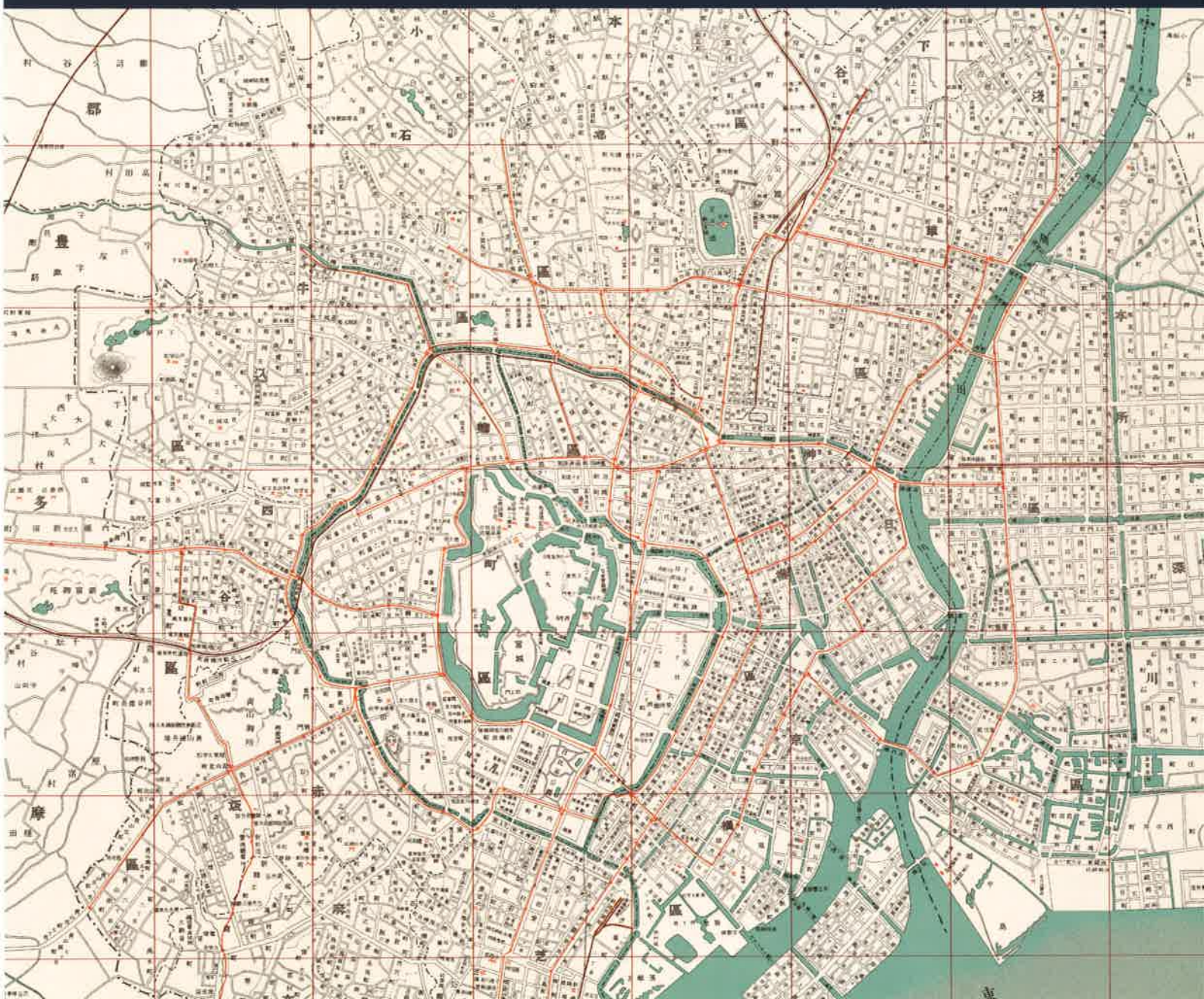


2013年3月 文京区立森鷗外記念館編集・発行（年4回発行）



文京区立 森鷗外記念館NEWS

No.2



森鷗外立案 東京方眼図

目次

次回展示のお知らせ	特別展「鷗外の見た風景～東京方眼図を歩く～」
展示報告	コレクション企画「手紙で語る鷗外の交流」
活動報告	2013年2月～3月
コラム	From 観潮楼主 No.2
	平成25年度 前期 開館カレンダー

文京区立森鷗外記念館 特別展

『鷗外の見た風景』東京方眼図を歩く』

いま私たちが使っている地図、縦線と横線からなる方眼で構成された地図の作成を明治期に企画したのは、森鷗外でした。当時の日本ではまだ目新しかったこの試みは、1909（明治42）年、森林太郎立案「東京方眼図」として発行されました。なぜ鷗外が「東京方眼図」を立案したのかは未だわかっていません。しかし、その作成には

留学先のドイツで方眼の地図を使用した経験や、江戸の古地図を収集するほど地図が好きだったこと、毎日の散歩で街を歩いた体験が生かされています。

「東京方眼図」は、鷗外の作品の中にも登場します。1910（明治43）年に発表された小説『青年』では、主人公・小泉純一郎が「東京方眼図」を使って東京を歩きます。

作品の中に駅や劇場など、当時の街の様子が克明に描かれています。鷗外が、日本各地へ出発する人々を見送りに行った新橋駅や上野駅。家族と出かけた上野の博物館や動物園。鷗外の翻訳劇が上演された有楽座や新富座。鷗外が買い物を楽しんだ三越や資生堂。鷗外が訪れ、作品に登場させた鉄道や博物館、劇場などは、

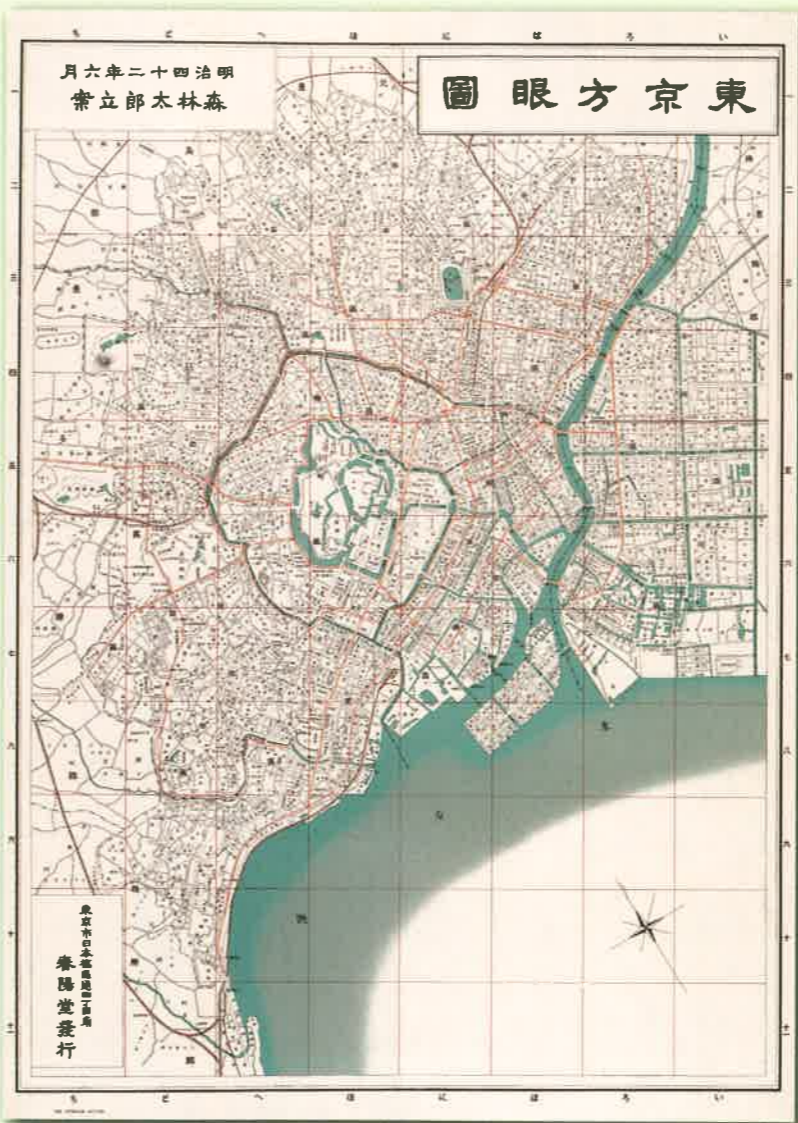


近代化する東京の象徴ともいえます。今回の展示では、「東京方眼図」が刊行された明治末の東京を、鷗外の記事から探り、当時の写真や文物で紹介いたします。当時の人々の生活や鷗外も見ていた風景とともに、「東京方眼図」の時代を歩いてみませんか？

協力

- 資生堂企業資料館
- 株式会社 春陽堂書店
- 鉄道博物館
- 東京大学総合図書館
- 株式会社 榛原
- 文京ふるさと歴史館

会期 2013年4月19日（金）～6月23日（日）
会場 文京区立森鷗外記念館 展示室1,2
開館時間 10:00～18:00（最終入館は17:30）
会期中の休館日 5月28日（第4火曜日）
特別展観覧料 一般500円（20名以上の団体：400円）
中学生以下無料
障がい者手帳ご提示の方と同伴者1名まで無料



『東京方眼図』春陽堂 1909年刊



上野公園（国立国会図書館提供）



明治39年頃の資生堂（資生堂企業資料館提供）

特別展関連事業

講演会のお知らせ

会期中に講演会を開催します。

第1回講演会

5月25日（土）15時～16時30分

講師：坂崎重盛氏（編集者、エッセイスト）

会場：文京区立森鷗外記念館2階講座室

定員：50名

料金：無料（事前申込制）

申込期間：4月20日～5月7日

（当日消印有効）

申込方法

往復はがきの往信に「5月25日特別展開連講演会」・氏名・ふりがな・住所・電話番号を、返信に氏名・住所を明記の上、左記宛先までお送りください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4

文京区立森鷗外記念館「5月25日特別展開連講演会」受付係

第2回講演会

6月に開催を予定しています

詳細は決まり次第、チラシやHP等でお知らせいたします

ギャラリートーク

展示室にて当館学芸員が展示解説を行います

4/24、5/8、5/22、6/12

（いずれも水曜日）

各回14時～（30分程度）

申込不要 展示観覧券が必要です

展示報告

コレクション企画

「手紙で語る鷗外の交流」

会期：2013年1月24日（木）～4月14日（日）

4月14日（日）

記念館では年2回の「特別展」と、通常展期間中に行う当館所蔵資料によるミニ展示「コレクション企画」を行っています。

コレクション企画の第1回目となる本展では、所蔵遺品資料の中でも特に収蔵数を誇る、書簡や葉書に焦点を当て、会期ごとに異なるテーマで展示を行いました。また、それぞれの会期中にギャラリートークを行い、学芸員による解説をお楽しみいただきました。



展示会場（展示室2）



ギャラリートーク

第1期

「アンヌコとパツパ」

～小堀家寄贈資料を中心に～

（1月24日～2月25日）



鷗外より杏奴宛て葉書（1918年11月5日）



鷗外より杏奴宛て葉書（1920年11月9日）

第1期では、鷗外が奈良から、次女杏奴へと書き送った書簡を紹介しました。陸軍軍医総監を辞任した翌年、帝室博物館総長兼図書頭となった鷗外は、正倉院曝涼のため、毎秋、奈良へと出張しました。鷗外は30日程の出張の間、毎日子どもたちへ手紙を書き送り、その数は5年間で130通以上になりました。当館にはそのうち、杏奴宛ての葉書68通を小堀家よりご寄贈いただいています。

書簡には、杏奴の手紙への返信や奈良の様子、家族への伝言などが綴られ、杏奴の成長に合わせて仮名や漢字も使い分けていたことがわかります。年ごとに書簡を紹介したことで、内容の変化や背景が、とてもわかりやすかったとの声をいただきました。

第2期

「千駄木の先生 鷗外」

（2月27日～4月14日）

第2期では、鷗外の広範な人脈を、鷗外自身によって整理・保管されていた書簡から紹介しました。

書簡の差出人には、鷗外と同時代を生きた学者岡倉天心や井上円了、鷗外が敬愛した軍人乃木希典、鷗外を「千駄木のメエトル（先生）」と呼んだ若い作家たち、木下幸太郎や石川啄木など、世代やジャンルを越えた多彩な顔ぶれがみられます。その内容は、鷗外に執筆や講義等の依頼をしたもの、鷗外の作品に関するもの、差出人自身の近況を伝えるものなど様々です。鷗外がここまで多くの著名人たちと親交をもっていたことに驚いた、との感想をいただきました。



永井荷風より鷗外宛て葉書（1908年11月22日）



雅劇第1回開演記念寄書葉書（1905年4月29日）

コレクシヨン企画関連講演会 『アンヌと。パツパをつなぐもの』

——ことばの花束——

コレクシヨン企画第1期「アンヌと。パツパ」にちなんだ講演会です。

鷗外が奈良出張中に家族へ宛てた書簡や葉書。その文面と絵柄をもとに、鷗外の感性が杏奴にどう伝わったかを、小川康子氏に講演いただきました。



日時 2013年2月24日(日) 14時～15時半
講師 小川康子氏(東海大学講師)

正倉院に咲くゲンゲの押し花を「アンヌにとらせた」とは、野に咲く花への親しみを杏奴にこそ贈りたかったから。少女や庭のモチーフの絵葉書(大正9～10年)を選んだのは、やはり杏奴や草花を連想させるから。それらを杏奴は自然に対する愛情へと熟成させたとお話しいただきました。ま



鷗外から杏奴への手紙
(1922年5月5日)

た、大木を父に、2匹の鹿を杏奴と類になぞらえた絵葉書(大正9年11月19日)にみる楽しいパツパぶりも紹介されました。

鷗外は天気や仕事など日々の出来事を書き送り、杏奴は日常をこなしながら人生をかたちづくっていく規範をそこにみたと父娘のつながりをまとめてくださいました。聴講者の方からは「野の花を愛し、日常の中にささやかな幸せを見出していく鷗外に改めて合点がきました」との感想をいただきました。

文の京ワークショップ 『トールペイントでブックカバーをつくってみよう!』



日時 2013年2月18日(月) 13時～15時
講師 本間由美子氏(トールペイントインストラクター)



鷗外自画のミズクをモチーフに

今回のモチーフは、所蔵品の「鷗外画ミズクの皿」。直線はマスキングテープでガイドをつけて、絵柄のミズクは型紙に沿って、アクリル絵の具で描きます。参加者の皆さんは、全員トールペイント初体験!少し緊張気味の様子でしたが、先生の親しみやすい指導で、あっという間に打ち解けていました。隣の方と一緒に参加された方同士で作品を比べたり、先生の技をお互いで伝授し合ったり、思わず途中で「楽しいわ」と感嘆するほど、和んだ講座でした。

文の京ワークショップ

鷗外作品読書会1

『山椒大夫』

「ことばの美しさを求めて」

先ず初めに参加者一人一人が山椒大夫を読んだ感想を語りました。自らの出身地と



日時 2013年3月3日(日) 14時～16時
講師 倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事・日本工業大学非常勤講師)

思いを重ねる方、子どもの頃との読後感の違いを話される方、溝口監督の映画や前進座の芝居を思い浮かべて読んでくださった方がありました。感想を述べ合うなかで、登場人物の心理があまり書かれていないこと、山椒大夫が罰せられない理由、安寿はなぜ死ななくてはならなかったのかなどの疑問が上がりました。

そのうえで山椒大夫をあらためて読み、意見交換に入りました。

後半では、特に安寿の死について本文をたどりながら、それぞれの思ったことを話し合いました。そして、生き続け厨子王と出会う母との対比から、安寿は自ら死をも選択し、「山椒大夫」のタイトルは安寿にたふさがる運命としての名だったとのお話がありました。

参加者からは、「色々な意見が聞けて興味深かった。今後も読書会を続けてほしい」との感想が寄せられました。

寄稿

文京区立森鷗外記念館・明治大学共催 学術シンポジウム

光源としての『森鷗外』—いま、『近代』を問い返す

2013年3月6日、明治大学と森鷗外記念館との共催で学術シンポジウム「光源としての『森鷗外』—いま、『近代』を問い返す」が開催された。

パネリストとして、小泉浩一郎(東海大学名誉教授・森鷗外記念会常任理事)、宗像和重(早稲田大学政治経済学術院教授)、井戸田総一郎(明治大学独文学専攻教授)、高橋義人(京都大学名誉教授、平安女学院大学教授)、大石直記(明治大学文学部教授)の各氏が参加した。会場はほぼ全席が埋まり、朝、10時30分から夕方5時まで長時間に亘る発表と議論が行われた。

加賀乙彦名誉館長が開会の挨拶をされ「鷗外は文藝文から出発し、そこから現代



シンポジウム会場

に続く口語文をつくりあげた一人である」と述べられたが、この言葉はこのシンポジウムのテーマと深く関係を持つものであったことが、各氏の発表を通してやがて明らかになっていった。

まず、小泉浩一郎氏により「鷗外訳『正體』(フォルメラ)の『正体』—言論・思想弾圧政策と鷗外の抵抗」と題された発表が行われた。鷗外が翻訳の過程で表現を巧みに工夫しながら、当時(明治末期)の言論弾圧を無化するような戦略を持っていたことを解明していかれた。

宗像和重氏は「森鷗外と近衛篤磨」と題された発表を行われた。近衛篤磨(1863～1904)は、鷗外と同じ時期にドイツに留学、短期間であったが鷗外及び原田直次郎らと交流し、帰国後『精神』を創刊した。そこに鷗外が寄稿している文章を紹介され、「かのやうに」の秀磨にはこの近衛篤磨が投影されているのではなからうかと述べられた。

井戸田総一郎氏は「鷗外の演劇言語にみる近代」と題された発表をされ、鷗外の西洋演劇の翻訳(調高矣洋絃一曲)(カルデロン作)や『Die Frau mit dem Dolche』(シュニッツラー作)、あるいは鷗外自身が創作した演劇の脚本(『玉篋両浦嶼』)における言語表現の創意工夫のあり方やその特徴を詳細に紹介された。

高橋義人氏は「西洋近代への懐疑—アンチ・ファウストとしての『鷗外』」の題で、鷗



総合討議

日時 2013年3月6日(水) 10時30分～17時
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室

外とゲーテとの比較を通し、西洋における個人主義(自我という「存在」に執着)と日本における個人主義(「没我」や「無私」への希求)との相違を語られた。

最後に、大石直記氏が「舞姫」の生成、あるいは、文学的近代—脱・ロマンティック過程として」と題して発表をされた。「舞姫」の生成過程(虚構表現史における「一人称回想」スタイルの初導入)と、鷗外が提起しようとした近代の問題(ロマンティックに肥大化した自我とその犠牲に供される他者)を論じていかれた。

各氏の発表後、総合討議が行われた。それぞれの発表を受けて、発表者、加賀乙彦氏をはじめとする会場の発言者との間に議論があったが、時間の関係で未消化に終わり、記念館内のカフェでのレセプションにまで議論は持ち込まれた。

森鷗外記念会常任理事 倉本幸弘

観潮楼正門跡



記念館の東南に位置する敷下通り側の入口は、観潮楼の正門だった場所です。その門跡に、鷗外生前当時のまま遺る「敷石」と「門柱礎石」。それは、鷗外や家族、親戚、友人をはじめ、観潮楼を訪ねた幾多の来客を迎え、そして見送った、その息吹を今に伝えています。

鷗外没後は、関東大震災や火災、第二次世界大戦の空襲に耐え、1950(昭和30)年9月には、敷石と門柱礎石を含む観潮楼の跡地が「森鷗外遺跡」として東京都史跡に指定されました。

現在、記念館の扉には、この敷石に立つ鷗外の写真が設置されています。皆さまも観潮楼を訪れた人々のようにその石を踏みしめて、是非当館へお越し下さい。

From 観潮楼主 No.2



平成25年度前期 文京区立森鷗外記念館開館カレンダー

4月							5月							6月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	3	4	5	6				1	2	3	4							1
7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	
14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	
21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	
28	29	30					26	27	28	29	30	31		23 30	24	25	26	27	28	29	

7月							8月							9月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	3	4	5	6					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31	29	30						

特別展期間
 通常展期間(コレクション企画)
 休館日
 展示室閉室(ショップ、カフェ、庭園は開放)

※次回特別展 『鷗外の見た風景～東京方眼図を歩く～』(展示室1・2) 4月19日(金)～6月23日(日)



【交通案内】

- 電車をご利用の場合
 - ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅1番出口徒歩5分
 - ・東京メトロ南北線「本駒込」駅1番出口徒歩10分
 - ・都営三田線「白山」駅A3番出口徒歩15分
 - バスをご利用の場合
 - ・都バス草63番系統「千駄木一丁目」下車徒歩1分
 - ・都バス上58番系統「団子坂下」下車徒歩5分
 - ・Bぐる千駄木・駒込ルート「18特別養護老人ホーム千駄木の郷」下車徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL:03-3824-5511
 URL: <http://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00(最終入館は17:30)
 休館日 毎月第4火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)、
 及び展示替期間、極寒期間等

